

編集 後記

編集顧問 町田豊平 小川秋實 秋元成太

編集委員 村井 勝 郡 健二郎 藤岡知昭

本号の特集は、社会的にも関心が高い「過活動性膀胱」を取り上げました。超高齢化社会では、単に長生きするだけでなく、心身ともに健康で生きいきと生活することが大切で、QOLを損なう排尿障害への対策は重要になります。

厚労省の統計によりますと、65歳以上の老人(?)は日本総人口の約20%、2,000万人とのことです。そのうち90%弱もの老人は身体が健康で、自分自身で身の回りのことができる人たちです。寝たきりや痴呆の老人は、絶対数としては約200万人と多く、社会的にも幾多の問題を抱えています。超高齢化社会では、健康な老人にもっと質の高い生活を送ってもらい、人生の経験を生かして活躍していただける制度が必要だと思います。

2005年に、科学技術対策研究所が、これから20年間に実現可能であろう医療技術を予測調査しています。予測している医療技術の多くは、ヒトゲノムの完全解読によって解明されるであろう癌や生活習慣病にかかわるもので、遺伝子と蛋白質の研究は飛躍的に加速し、新たな診断マーカーや新薬が医療の現場に登場することを予測しています。例えば2018年には「癌の転移機構が解明」され、2023年には「癌のオーダーメイド治療」が可能となり、動脈硬化病巣の遺伝子治療が2024年に始まると予測しています。

この調査を見て気付くことは、15年前の同様の調査

で予想していたテンポに比べ、実用化が大幅に遅れていることです。例えば「癌の転移防止」は2007年に実用化されると予測されていましたが、今年も残り数か月、この間に実現できないことは明白です。研究が進めば進むほどに人体の神秘さを知り、病態の複雑さが浮かび上がってきます。科学の神様は、人類が行っている真理への探求心に、おいそれと合格点を与えてくれそうにありません。

この予測調査で残念なことは、取り上げられている医療技術の内容が生命にかかわるものが大半で、QOLを損なう良性疾病には関心が少ないことです。老人に付きものの白内障、関節疾患、難聴などの記述はなく、泌尿器科領域では尿路結石、前立腺肥大、排尿障害も忘れられています。これら良性疾病に関心が薄いことは医学界や行政においても同様で、それらに対する研究助成が手薄いことはその1例です。癌や心血管・神経疾患に国際的関心が集まっている今こそ、日本の独創性を打ち出し、QOLを損なう良性疾病の病態解明と新しい治療法の開発に力を注ぐべきではないでしょうか。

「過活動性膀胱」の病態が解明され、老人の悩みである夜間頻尿や切迫性尿失禁が治り、明るくて活動的な老後を送れるようになってこそ、長生きをする喜びがあるのだと思います。

(郡 健二郎)

臨床泌尿器科 (第61巻 第8号) (通巻730号)

2007年7月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%)

2007年 年ぎめ予約購読料 (増刊号を含む13冊)
41,360 円 (税込・送料サービス)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709

(担当: 登・渡辺・中田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp

振替口座 東京 00170-9-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。

・ 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。

・ JCLIS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。